

令和4年度 我孫子中学校 全国学力・学習状況調査 分析結果

4月19日(火)に3年生を対象に実施した、全国学力・学習状況調査(国語・数学・アンケート)の分析結果を以下に記載しますのでご覧ください。

【国語】

今回の調査で出題された問題は、国語の学習指導要領の内容のうち、次のとおりです。

- 知識及び技能・・・①言葉の特徴や使い方に関する事項
②情報の扱い方に関する事項
③我が国の言語文化に関する技能

- 思考力・判断力・表現力・・・①話すこと聞くこと
②書くこと
③読むこと

上記の内容について、3つの問題形式で出題されました。

- ①選択式 ②短答式 ③記述式

これらを踏まえ、我孫子中学校の国語の調査結果で見えた課題、改善のための手立ては以下のとおりです。

○令和4年度の調査結果の分析

I. 調査結果にみられる特徴と現状分析

「書く」「情報の扱い方に関する事項」の2つは、県平均値を大きく上回っている。「書く」については、これまでの授業や定期テストを通して、作文の経験の積み重ねの成果だと考えられる。一方で、「話すこと・聞くこと」が県平均値を下回った。話し合い活動が制限される中、取り組みが不十分だったことも原因の一つではないかと考える。

II. 改善目標

文章を読み解く力を育てる。

III. 改善方策

普段の授業の中で、ワークシートなどを使いながら、個々で読み取る時間を積極的に設ける。

IV. 検証方法

文章の構成を捉えたり、根拠となる部分を探し、説明させ、読み取れたりしているか確認する。

○令和4年度、令和3年度、平成31年度の調査を比較した分析

I. 調査結果にみられる成果と課題

一昨年、昨年に比べて、「書くこと」の正答率が上がっている。「情報の扱い方に関する事項」の正答率は全国平均より高い。これは、書く場面を増やしていることや、学校全体でICTに触れながら学習をする機会が多いことが影響していると考えられる。

その一方で「話す、聞く」の項目と「読む・記述」の項目が経年に比べ低くなっている。これは、昨今の

感染症による話し合い活動や生徒同士の会話を減らすよう指導してきたことが影響しているのではないかと考える。

II. 改善目標

根拠を明確にして話す力、批評しながら話を聞く力を育てる。

III. 改善方策

自分の意見・考えを発表したり、他者の意見・考えと自分の意見・考えを比較したりする機会を設ける。

IV. 検証方法

グループでの話し合いを通して、意見と根拠や共通点と相違点を見つけられたか確認する。

【数学】

今回のテストで出題された数学の学習指導要領の領域は4つに分かれます。

①数と式 ②図形 ③関数 ④データの活用

上記の4つの領域について、3つの問題形式で出題されました。

①選択式 ②短答式 ③記述式

これらを踏まえ、我孫子中学校の数学の調査結果で見えた課題、改善のための手立ては以下のとおりです。

○令和4年度の調査結果の分析

I. 調査結果にみられる特徴と現状分析

全ての項目において、全国平均を上回っている。図形やデータの活用では全国平均よりも高い値となった。一方で、数と式ではあまり高い値にはならなかった。単純な計算は得意としているが、教科書通りの考え方でしか理解していない。数学的な関心が低いため、様々な視点から問題をみることができていないようである。

II. 改善目標

1つの問題に対しても、様々な視点で考えられるような思考力を育てる。

III. 改善方策

数学への関心を高める必要がある。そのために、友達と意見を交換する機会などを設ける。また、数学の学習と日常生活や社会活動とを関連付けて考えさせたり、数学の便利さを実感させたり、数学的な考え方を学級活動に取り入れたりする。

IV. 検証方法

普段の授業での課題を通して、グループワークを行い様々な意見が出るようになっていくかを確認していく。

○令和4年度、令和3年度、平成31年度の調査を比較した分析

I. 調査結果にみられる成果と課題

一昨年、昨年に比べて正答率がやや向上している項目が多い。データの活用に関しては、全国平均よりも年々高くなっている。これは、ICTを利用し実際に生徒に触れさせながら取り組むことを行っている成果であると考えられる。一方で、数と式の項目では全国平均は上回っているものの、昨年度よりも肉薄している。普段の計算練習では解ける生徒が多いが、自分で式を立て関係性を表すことなどが弱いため教科書だけの模範解答だ

けでなく、様々な発想ができるようにする必要がある。

II. 改善目標

1つの問題に対しても、様々な視点で考えられるような思考力を育てる。

III. 改善方策

数学への関心を高める必要がある。そのために、友達と意見を交換する機会などを設ける。

IV. 検証方法

普段の授業での課題を通して、グループワークを行い様々な意見が出るようになっていくかを確認していく。

【理科】

今回のテストで出題された理科の学習指導要領の領域は4つに分かれます。

①エネルギー ②粒子 ③生命 ④地球

上記の4つの領域について、3つの問題形式で出題されました。

①選択式 ②短答式 ③記述式

これらを踏まえ、我孫子中学校の理科の調査結果で見えた課題、改善のための手立ては以下の通りです。

○令和4年度の調査結果の分析

I. 調査結果にみられる特徴と現状分析

多くの領域、問題形式で、全国・県平均値を上回っているが、その中でも領域では『粒子』、問題形式では『短答式』の2つは全国・県平均値を下回った。『粒子』については、これまで授業で取り上げる機会が少なかったことや取り上げたとしても学習してから時間が経過したことが原因として考えられる。つまり、内容が定着していないことが分かる。また、問題形式の『短答式』の正答率が低かったのは、重要語句の理解不足が考えられる。反対に『記述式』の正答率が高かったのは、授業で実験を少人数で実施する等して、自分の言葉で結果・考察・まとめを行っている取り組みの成果があらわれたようである。

II. 改善目標

図を活用し、視覚的に分かりやすくまとめることで、理解を促す。

III. 改善方策

単元終了時に、重要語句の確認を行う。それぞれの語句の意味を整理し、それらの関係性をまとめる。3年の化学の分野において「粒子モデル」を使用し、1・2年次との関連にも気がつかせ、理解を深める。

IV. 検証方法

授業での話し合い活動や発表を通して、視覚的に理解する場を意図的に設ける。ワークシート等を用いて、理解度を確認していく。

【アンケート】

国語と数学の学力調査の他に、生徒へアンケートを行いました。生徒へのアンケートの主な観点は5つです。

①国語への関心等 ②数学への関心等 ③理科への関心等 ④規範意識 ⑤自己有用感 ⑥生活習慣・学習習慣

これらの結果の分析は以下の通りです。

○令和4年度の調査結果の分析

国語、数学への関心、規範意識、自己有用感の項目が全国平均を下回っている。理科に対する関心は平均を上回っているため、学校で行う授業に対して関心を持っていないということではなく、特定の教科において、関心を持って授業に臨むことができていない生徒の割合が高いということが読み取れる。また、本校の生徒の雰囲気は全体的に落ち着いているが、規範意識が低い値となっている。質問項目で見ると、「人の役に立つ人間になりたいか」、「人が困っている時は進んで助けるか」等の規範意識が低い値となっている。教育活動において、学習内容だけでなく、人を思いやる心や道徳的行動を積極的に推進していく必要がある。

○令和4年度、令和3年度、平成31年度の調査を比較した分析

国語への関心は、下がっている。数学への関心は昨年度大きく上回ったものの、今年度大きく低下している。どちらの教科においても生徒の問題の正答率は高いものの、「授業の内容はよくわかるか」との問いに対してはポジティブな回答率が低くなっている。授業の中で、生徒が分かったと思えるような声掛け、授業作りを行っていかねばならない。また、分かったと思える授業を行うことにより、自己有用感も高まるのではないかと。今後は、職員の研修を進め、学習指導、生徒指導力を高めていく必要がある。